

日本大学 桜樹会会報

創刊号

昭和45年3月

日本大学桜樹会

# 目 次

桜樹会会報創刊号に寄せて .....	体育会体操部部长	平野平三	2
体操部の黎明期 .....	体育会体操部監督	門脇春男	2
発刊に想ひ .....	桜樹会会長	稲橋恒行	4
発刊に寄せて .....	桜樹会総務	菊地君男	4
桜樹会の歩み .....			6
結婚された方々の消息 .....			7
責務をおえて .....	44年度男子主将	山本好隆	9
体操部生活を顧みて .....	44年度女子主将	仁木文子	9
部活動の現状 .....	45年度男子主将	佐藤均	10
部活動の現状 .....	45年度女子主将	稲谷清子	11
体操部昭和45年度年間スケジュール .....			12
桜樹会関係1種審判員名簿 .....			13
お知らせ、編集部より .....			13
編集後記 .....			14
体操技術研究 (別誌)			

## 桜樹会会報創刊号に寄せて

体育会体操部部长 平野平三

本学体操部の機関誌としては、すでに昭和38年初代部長故秋葉安太郎先生の時、「桜樹」が創刊されて好評をばくし、39年の第2号まで刊行されたが、その後、いろいろな事情があって今日まで6年間第3号以降を出すことができなかつた次第である。

今回先輩各位のご甚力により、桜樹会会報を発刊できるようになったことは、先輩各位と部員諸君の相互の親睦をはかり、また体操部の発展のためにまことに嬉しいことである。「桜樹第2号に寄す」に述べてあるように、桜樹の幹が太く高く伸び、ますます枝も張り花の数も増すように希望しておられた故秋葉先生も地下において喜んで下さることと思う。

ここに創刊号に掲載された当時の総務菊地君男氏の「線路工夫」を部員諸君に紹介する。

『われわれは線路工夫だ……教育大、日体大はすでに……数多の先輩が……築きあげた軌道に列車が走っていて、現在の部員は……乗客なのだ。』

わが部は創立以来6年、先輩の……青写真に従って基礎を築き、目的地に向って軌道をのばす努力をしなければならぬ。目的地は学生の王座……インカレに勝つことだ。

われわれは乗客になりたがってはいけぬ。軌道を築くのだ。いいかげんな作業をすれば、列車は事故を起こし乗客は目的地に到達できない……われわれの責任は重い。しかし、立派に軌道が完成し、列車が走る日を思えば、やりがいのあることではないか、部員一同線路工夫たることを自覚して欲しい。』

このように体操部創立以来愛部心に燃え、後輩のためを思い、責任をもって青写真を作り、線路工夫となって軌道を築かれた先輩各位の努力に対して敬意と感謝の意を表わし、乗客として迎えられた部員諸君に、この先輩各位の苦勞を忘れず脱線することなく目的地に到達するよう一層の努力を続けられることを切に希望する。

## 体操部の黎明期

体育会体操部監督 門脇春男

初刊によせて体操部創設時の様子を10年

いとめてみた。

前の資料からは是非この機会に発表したいと思

昭和31年4月桜花咲き乱れ、校庭が活気

のある新学期の始まったある日、体育館(昭和27年完成—新器具一式揃っていた)にてみると、体育館のすみの方に積み重ねてあるマットのところでは4~5人が集まっていた。声をかけてみると経済学部の学生で、「体操をやりたいが、この器械を使ってもよろしいですか」と聞くので私は、「体操をやりたいればトレーニングシャツを持ってきて昼休みにやっていたいよ」と答え、この時はなんとなく雑談し、そのまま別れた。さて、翌日の昼休みになると、トレパン姿の連中が2、3人迎えにきた。「今日は練習をやりたいのを見てください」と……。この日はマットをやり、自己紹介などして終わった。またつぎの日になると、昨日より人数が2、3人増えて、「今日もやりますから」ときた。このようになんとなく集まってきたのが体操部のそもそもの始まりであった。その時のメンバーが第一回、昭和35年3月の卒業生である。

同じ年の春、身体のえらくでかい学生(注約20貫位で学生服がはちきれそう)がのっそりと体育課へ入ってきて、「なにがスポーツをやりたいのですか」とおどそかにのたもつた。そのときの会話として、

私 「君はなにがやりたいというが、なにが得意かね」

学生 「柔道を少しやっています。できれば柔道部へ入りたいのですが、ここには練習場がない様子だから、どんな部でもよろしいです」

私 「どこの高校出身だ」

学生 「日大豊山高校で生徒会長をやっていました」

私 「ところで、いま、体操同好会を作っているが、これの世話役をひとつやってくれないか」

学生 「……………」(いささか不服そう)

私 「体操は、とてもおもしろいよ」

学生 「すこし考えさせて下さい」

そのうちにこの学生はなんとなしに毎日先生がたのお茶をくんだり、掃除をしたりしはじめた。朝は教室に行く前に体育課に寄り、夕方暗くなるまで電話番をしたりで、いつしか体育課の職員みたいなかっこうになってしまった。こうしていつの間にか体操部のまとめ役になっていた。この人が現在、桜樹会の会長をやっている稲橋恒行氏である。

昭和34年、全日本学生体操連盟の幹事長になった。我々の仲間からこの晴れの幹事役をとったのだから学生・選手も張り切り、インカレを目指して頑張った。この時の新人は第4回卒業生である。

とにかく、わが体操部にとって、この稲橋氏の存在なくしては語ることはできないだろう。合宿所においては、金がなくて食物を買うことができなくなると、自分の家(新宿)へ連れて行き、メンバーに食べさせたり、あるいは資金づくりに石井主将と2人でギャンブルに出かけ大金をせしめてみんなに食べさせた事もあると聞く。今思うとのどかな牧歌的な感じがする。

## 発刊に想う

桜樹会会長 稲橋恒行

部が誕生したのは、昭和31年のことです。わずか9名の部員が、旧体育館の隅の方で、申しわけなさそうに練習していたものです。

今日のように、立派な体育館で、大勢の部員が練習に励んでいるのをみるにつけ、当時のことが、なつかしく思い出されます。

年とともに発展してきた部と同じくして、桜樹会も成長してきました。ささやかな親睦会として発足した本会も、現在170余名を擁する立派な会に育ったのです。

しかし、単に会員数が増したことが、会の発展を意味するとは、必ずしも申せません。

会則にもありますように、懇親会の開催だけでなく、いろいろな面で、充実した事業を行なっていかなければならないと思っております。

そのひとつには、本会報の発刊があり、桜樹会として対外試合に参加することがあげられます。会報の発刊に当っては、若い人達が情熱を傾けて、仕事を進めてくれています。私達としても、このささやかな灯を消すことのないよう、暖かく見守っていきたいものです。又、本年は、新しいメンバーを迎え、ベテラン早田君を加えたチームが、全日本選手権に初出場する運びとなりました。現役のチーム共々、心からの声援を送りたいと思います。

70年は飛躍の年である、とは各方面で言われる言葉ですが、桜樹会にとっても、ひとつの契機にしたいと願っています。

それには会員諸兄の協力がなければなりません。皆様の協力を切に願います次第です。

## 発刊に寄せて

総務 菊地君男(38年卒)

桜樹会の会計簿をひらくと、1ページの1行目に、昭和38年5月19日、金1000円也の赤字が記入してある。往復はがき10枚の代金である。(当時ははがき1枚5円だった)

体操部第1回 35年卒3名、第2回 36

年卒5名、第3回 37年卒11名、第4回 38年卒16名、計35名による桜樹会発足の時である。

以来7年、会員はすでに200名に達しようとしている。継続してこの仕事に携わってきた私にとって感慨深いものがある。

正式の発足は、別項「桜樹会の歩み」にある通り、38年3月24日にはあるが、それ以前から、36年卒の堀田氏らが中心となって、毎週1日体育館に集合し、現役と共に汗を流す会がもたれていた。卒業してもなお体操から離れ難い気持が、この会を育ててきたのである。

4年間、共に練習に励んだ思い出をもつ者が、卒業後も相集いて、体操に対する情熱を語り合ひ、そんな雰囲気は今でも変わっていない。

しかし、50名に満たない発足当時と、200名にせんとする今日では、会そのものの組織とか機構・活動内容に関して再検討されるべき時機にきている。

親睦を中心とした会から脱皮して、充実した、内容のある会に育てていくため、我々は何を為すべきであるのか、そのひとつの足掛かりが、この機関誌の発行であろう。

先日の幹事会における活発な討議の中から生れたこの機関誌を、立ち消えにしないためにも、会員諸兄の協力がぜひとも必要なので

ある。

この機関誌の意図するところは、まず、会員相互（現役も含めて）の交流の手立てにすることである。

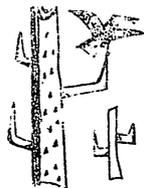
遠く離れた友の消息を知ったり、後輩の活躍ぶりを知るのはうれしいことである。

しかし、そればかりでなく、お互いが、厳しい社会生活の体験を通して、人生を語り、悩みを話す場としても、重要な意義をもつのではないだろうか。現役の諸君にも必ずや有意義なものとなるだろう。

また、大部分が体育学科の出身であり、教職に携わる人達が多いという点からも考えて、将来は、体育に関する研究発表の機関としても、発展して欲しいものである。

幾度か試みられ、立ち消えになってしまった苦い経験があるが、梅野(43年卒)・箱根(44年卒)・海谷(41年卒)・工藤(45年卒)の4君が、若いエネルギーを結集してこの仕事に当たってくれる。きっと成功するだろう。

……ささやかなこの機関誌が、立派な機関誌に成長する日の間近いことを念じつつ……。



# 桜樹会の歩み

— 総務ノートより —

昭和38年 3.24	体操部 <sup>OB</sup> OG会 (文理食堂) ◎桜樹会発足, 会則制定	5.16	幹事会 出席6名(文理)
4.14~5.16	顧問遠藤コーチヨーロッパ遠征	6.12~13	関東インカレ応援 出席16名 (宇都宮市1泊)
6.6~8	NHK杯(6名出場) 藤谷(37年卒)早田(38年卒) 高田(38年卒)田野(38年卒) 渋谷(38年卒)遠藤コーチ	6.27	NHK杯出場選手慰労会 (渋谷レストラン京王)
6.24~7.21	高田・渋谷ヨーロッパ遠征	7.28~8.1	インカレ応援 10名(高知市)
7.10	懇親会 (文理食堂)	10.30	地方会員 三田(能代37年卒) 斉藤(秋田37年卒)佐藤(秋 田38年卒)を迎えての懇親 会 参加12名(下高井戸 ふかや)
7.24~8.2	第17回インカレ(広島)	11.15	全日本選手権 (京都)
8.20~9.15	早田ユニバシアード出場 個人総合3位 (ブラジル)	11.7	第1回ハゼ釣り大会 参加10名 (東京湾)
10.11~16	第17回全日本選手権兼国際ス ポーツ大会 6名出場(東京)	12.11	第2回忘年会 参加13名 (下高井戸ふかや)
昭和39年 3.22	38年度会員総会(文理食堂)	昭和41年 3.13	幹事会 出席13名(文理)
7.	第18回インカレ(前橋)	3.21	40年度会員総会 出席31名 (文理・合宿所)
10.10~	オリンピック東京大会 (3名出場) 遠藤 個人1位, 平行棒1位 早田 個人8位, 吊輪1位 渋谷	5.28	世界選手権予選出場選手慰労会 参加15名(合宿所)
11.	第18回全日本選手権 3名出場(秋田)	6.12	関東インカレ応援 参加14名 (川崎市)
11.4	オリンピック入賞祝賀会 (文理食堂)	7.19~24	インカレ (東京)
12.17	第1回忘年会 参加16名 (東十条信寿し)	7.24	堀田(36年卒)ソ連遠征社行会 (新宿・小田急デパート)
昭和40年 1.31	幹事会 出席15名(文理)	9.18	幹事会 (文理)
2.13	新年会 参加13名(東十条信 寿し)	11.18~	全日本選手権 (銚子市)
3.21	39年度会員総会 27名 (文理食堂)	12.3~4	第3回忘年会 参加11名 (館山・ホテル洲の崎1泊)
3.27~28	実演会 (福島市)	昭和42年 3.21	41年度会員総会 参加34名 (文理・上野ホテル小松)
		7.	インカレ (神戸)

9.15 第2回ハゼ釣り大会 参加11名(東京湾)

12. 全日本選手権 (名古屋)

12.9~10 第4回忘年会 参加11名 (館山・ホテル洲の崎1泊)

昭和43年 3.17 42年度会員総会 参加40名 (文理・石神井葵寿し)

8.23~26 インカレ (長崎)

10.10~28 オリンピックメキシコ大会 (3名出場) 速藤・早田・渋谷(現在木村)

9.10 第3回ハゼ釣り大会 参加12名 (東京湾)

11. 全日本選手権 (盛岡)

12.7~8 第5回忘年会 参加19名 (館山・ホテル洲の崎1泊)

昭和44年 6.22 NHK杯出場選手慰労会 参加31名(新宿・緑寿し)

7. インカレ応援・懇親会(駒沢) 参加35名(成城マダム・チャン)

11.13~16 全日本選手権 (山口)

11.29~30 第6回忘年会 参加10名 (館山・ホテル洲の崎1泊)

昭和45年 3. 44年度会員総会中止

1.25 幹事会 出席15名 (体協)

2.24 幹事会 出席15名 (体協)

### 結婚された方々の消息

桜樹会も、発足以来7年、11回生を迎えます。若い私達の間でも、二世誕生のニュースが聞かれるこの頃です。

ツメエリに角帽姿だったあの先輩が、おさげ髪で練習に励んでいたあの後輩が、よきパパとなり、ママとなった姿を想像するだけで、ほほえましくもあり、楽しいことではありませんか。

そこで今回は、今までに結婚された方々の

消息を、お伝えすることにしました。

できるだけ正確を期したつもりではありますが、不明の点が多く、完全にお伝えすることができなかったことは残念です。

適齢期の方には、嫌みにとれるかもしれませんが、そのつもりはありません。

良縁を得て、早く仲間入りして下さい。

—編集部—

結 婚 年 月	氏 名	配 偶 者 名	子 ども
37・3	稲橋 恒行 恭子 (旧姓合田)		1女

結 婚 年 月	氏 名	配 偶 者 名	子 ども
39・4	岩本 忠喜	みはる	1男1女
〃 ?	坂田 安世 (旧姓寺島)	?	?

結 婚 年 月	氏 名	配 偶 者 名	子 ども
40・1	古市 和也	百合子	2女
41・5	吉川 輝	政 子	1男
"	工藤 道弘	秀 子	1女
41・6	三田 久	節 子	1女
41・8	八戸 昭	綾 子	2男
41・11	斉藤 正弘	郁 子	1男
42・1	高田 信興	佳 子	1女
42・2	金子 正史	節 子	1女
42・3	石井 征也	悦 子	1男
"	二岡真美子 (旧姓下手)	博	1女
"	千葉 本子	勉	?
42・5	芳尾 明	寿己子	
42・11	堀田 淳二	康 子	
43・3	{ 上野 剛 優子 (旧姓佐藤)		} 1男
"	岡本 公子 (旧姓吉川)	武 勝	1女
"	阿部 秀規	こずえ	?
43・5	浅田 泰男	輝 子	4月予定
43・10	一田 召三	道 子	
43・11	佐藤 誠	節 子	
43・12	藤田 一	久美子	1男
43・?	小俣里知子 (旧姓東海林)	?	?
44・1	藤田 幸男	澄 子	
44・2	春山 文子 (旧姓小川)	国 広	

結 婚 年 月	氏 名	配 偶 者 名	子 ども
44・2	木村 多喜 (旧姓渋谷)	洋	
"	高島 健治	満 子	
44・3	早田 卓次	治 子	1男
"	菊地 君男	雅 美	
"	小松 武雄	弦 子	1女
"	磯部 忠通	みつ江	2月予定
"	川部 力夫	ハナ子	
"	仲西 盛光	郁 代	
"	山内 悟	史紀子	
44・4	船木 政明	奈保美	
44・10	平川 文雄	ム ツ	
"	早乙女貞生	陽 子	
"	金子 洋平	節 子	
"	前田千賀志	?	
"	高橋 房雄 (旧姓小野)	銚 子	1女
44・11	{ 林 昌幸 恵子 (旧姓須佐美)		
45・3 (予定)	常木 節子 (旧姓宮崎)		
?	米田 賢一	節 子	1女
?	辻 健一	?	?
?	波多野 伸	愛 子	?
?	佐々木盛一	?	?



## 責務をおえて

44年度主将 山本好隆

早いもので大学生活もこれで終りかと思うと、少し淋しい気持ちがある。

今振り返ってみると楽しかったことは勿論であるが、苦しかったことや、いやなことが今となってはとても楽しい思い出となって心の中に残っている。

特に一昨年においては学園紛争のために多くの人が迷惑をこうむった。我々体操部においては学園内にはいることができず練習場がなくなり、練習ができなくなるという最大のピンチに追いこまれた。

そこで我々は日大豊山高・日大鶴ヶ丘高において練習場を借り、練習を行なわせてもらうというようにジブシー生活が長い間続いた。またその間秋田への合宿・盛岡への合宿等で練習不足を補うとともに、強固な和を作った。特に秋田の合宿において楽しい思い出や、いくつかのエピソードがあり心に残るものがある。また紛争によって体操部自体としてもノーマルな状態でなくなったが特に合宿所・寮

においては変則生活が続いた。食事においては9時頃になるため寝るのが遅くなり、1年生等は練習・食事の用意・風呂の用意・後かたづけ、その他雑用があるため、ほとんど自分の時間が取れずどうしても睡眠時間に、しわよせされる状態が続いた。インカレにおいては、レギュラーが寮に移り、試合まで生活を共にし、食事等においては合宿所・寮の1年生が作りに来てくれた。

1,2,3年生の協力もあり学園紛争にも負けず無事にインカレまでやってこれたのも、こうした下級生の苦勞と協力を忘れることはできない。これからも後輩諸君苦しい時には逃げずに全部員の協力によって解決し、さらに進歩させ、新しいページを作りあげてほしいと思う。私達も、4年間の部生活を通して与えられた経験や教訓を実社会で十分生かし、また良きOBとして、今後ますます体操部が大きく飛躍するように協力して行きたいと思えます。

## 体操部生活を顧みて

44年度女子主将 仁木文子

ガラス張りの広いカッコー体育館。体操一筋に打ち込んでいる学生の熱気を膚に感じ

て緊張して入部した私。それが4年前の姿でした。

新入生は、一日中そのノルマを果すのに追われ、「こんにちわ!」の元気な挨拶も必死の作業でした。日大始まって以来の多数の坊主頭と純情可憐(?)な乙女が、体育館でひしめき合っていたのですから、先輩にとって指導するのが大変な学年であったことと思います。先輩曰く「もっと周囲に注意を払って仕事をしなさい!!」「仕事ばかりやっていて全然練習をしていない」というご注意をうけ、「じゃあ、どうすればいいの?」と小さな矛盾を感じて過ごしたものでした。しかし、上級生になるにつれて、それらのことが、「クラブの組織づくり」の上に大切であるということを理解しながら、一步一步成長して今日に至ったのだと思う。

日大紛争では、体操部部員としていかに行動し、後輩を指導するか、難しい時もありました。体育館で練習できない危機に陥った時は、毎日がジプシーのように練習場所を求めて渡り歩きました。その時、練習場を提供してくださったOBの先生方のご尽力で練習することができ、無事にその危機を乗り越えら

れました。それは限りない先生方のご指導と先輩方のご援助、仲間と後輩の協力とによって支えられてきたのだと思います。

体操部に所属して、協力し合うということひとつをとってみても、在学時代に学び得たことは、これから社会人として生活する上に大きな力となることと思う。

体操部部員の皆さんに望むことは、どんな苦境にも挫折しない強い心と、身体と、常に協力する心を忘れないで有意義な学生生活をし、いろいろな思い出を多く作ってほしいと思います。

生まれただけのOB・OGである私達です。まだ卒業生として日大体操部のために、どう行動したらいいのか解らないところが沢山あります。解らない点はグランド・ファーザーであるOBの方々にご指導いただいで、これからの体操部発展のために協力して行きたいと思います。

諸先輩!! 新米の私達卒業生をよろしくご指導お願い致します!!

## 部 活 動 の 現 状

次期男子主将 佐 藤 均

我々体操部一同は、全日本インカレ優勝を目指し、毎日練習に励んでいます。

第1次の強化練習〔基礎的技習得〕も終え学年末試験をむかえようとしております。学

園紛争も一応、落ち着きを取り戻し、部活動も、軌道に乗りつつありますが、昨年の紛争の影響が、授業を学年別に、午前・午後に分け、また、1年生は府中の校舎で授業を行な

い前述の強化練習も学年別となり、最初の計画が完全に遂行できませんでした。しかし、このことから、また違った効果をもたらしたように思われます。このような満足のいかない練習を補うために、3月下旬に、淡路島合宿が計画されております。短期間であります

が、今までの遅れを取り戻したいと、選抜メンバー一同、今から張り切っております。

また、合宿では、諸先輩方にも色々とお世話になると思っておりますが、宜しくお願い致します。

簡単ですが、部活動の現状報告と致します。

## 部 活 動 の 現 状

次期女子主将 稲 谷 清 子

今年も卒業生を送り出す日が来てしまった。毎年、この頃になると、何となく淋しくなり、感傷的な気持ちになってしまう。しかし、今年は先輩方が築きあげてくれた体操部を受け継ぐ最上級生であり、リーダーであると思うと、今までのように、のんびりとしていられなくなり、常に自分自身に拍車をかけています。

今年は恒例の試合の他に、ユニバシアード、世界選手権大会もあり、大変忙しい一年になることと思います。

昨年の女子の成績はインカレ、全日本とも2位であった。しかし、インカレ2位といっても、1位の日体大と14.25もの大量差があった。これからは、2位という成績に甘んじるのではなく、この約15点もの差に着眼する必要があると思う。もちろん、優勝は私たちの夢であるが、1位との差が、できるだけ少なくなるように、また、ユニバー、世界選手権に出場する選手が多数出るように、頑張り

たいと思っています。

そのためには、私たち各自が、しっかりとした心構えで、協力し合う事だと思います。

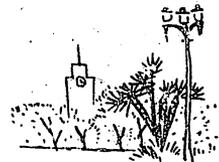
日大の場合、卒業後、大部分の先輩が体操部から離れてしまわれる方が多いように感じ、ちょっと淋しく思います。卒業されると、実社会での生活が忙しくなるとは思いますが、暇をみては、私たちにアドバイスをして下さい。また、悪い時には、お説教もして下さい。先輩方のご協力・ご指導を得て、よりよい体操部になるよう、力のおよぶ限り努めたいと思っています。

私たちは、また新入生を迎え、活気ある、そして、先輩がいつも来ていただけるようなクラブの雰囲気を作っていかなければならないと思います。

先生方の指導のもとに、今年、精一杯頑張りますので、OB、OGの方々、どうぞよろしくお願い致します。

## 体操部 45 年度年間スケジュール

3.29～4.4	男女合同合宿（選抜） 於淡路島	7.11～7.12	NHK杯兼世界選手権最終予選 於東京体育館
4.12	演技会（女子）	8.7～8.10	インターハイ 於和歌山
4月中旬	新人歓迎会	8.16～8.19	全日本インカレ 於名古屋
4.29	第1回東日本インカレ試技会（男子）	8.26～9.6	ユニバーシアード 於イタリア・トリノ
5.5	ユニバーシアード予選会 於駒沢体育館	10.10～10.15	国民体育大会 於盛岡
5.10	第2回東日本インカレ試技会（男女）	10.22～10.27	世界選手権大会
5.30～5.31	世界選手権大会第2次予選会 於岡山	10.31～11.1	関東新人戦
6.20～6.21	東日本インカレ 於駒沢体育館	11.15	東西対抗 於駒沢体育館
6.28	インカレ第1次試技会 （男女規定）	11.21～11.23	全日本選手権大会 於神戸
7.4	インカレ第2次試技会 （男子規定）		
7.5	インカレ第3次試技会 （男女自由）		



## 桜樹会関係1種審判員名簿

	氏名	卒業年度	所属		氏名	卒業年度	所属
男子	堀田 淳二	36年	東京	女子	木村 多喜	38年	東京
	藤谷 弘一	37年	北海道		吉井 公恵	38年	静岡
	菊地 君男	38年	千葉		海谷 美代子	41年	東京
	小栗 郁郎	39年	東京		岡本 公子	41年	東京
	金子 洋平	39年	山梨				
	小柴 守夫	42年	兵庫				

### お知らせ

#### ◇会費徴収方法に関して

この度、桜樹会として、口座を開設いたしました。近日中に振替用紙をお送りいたしますので、最寄りの郵便局に振り込んで下さい。

手数料は本会にて負担いたしますので、よろしくおねがいたします。



### 編集部より

#### ◇原稿募集に関して

会報は3ヶ月に1回発刊の予定です。皆様からの寄稿をお待ちします。趣旨をご理解の上、大いに原稿をお寄せ下さい。

#### 原稿送付先

千葉県千葉市花見川  
3-12-302 〒284

菊地 君 男

## 編 集 後 記

年ごとに桜樹会会員も増し、現在約170名になりました。現役も約170名体操部に籍をおいていることから将来会員が加速的に増加する傾向にあります。総務も述べられているように、この機関誌の意図する会員相互の交流および会員と現役との交流となるように我々編集部も努力して行きたいと思えます。

この仕事を通して、部長・監督・先輩諸兄の寄稿などに接し、体操部発足当時の状況を知り、非常な感銘を受けました。今後も部が存続してゆく限り、このようなことがらを、

会員・現役に伝えてゆくことは非常に有意義なことと思います。

そう思う時、私たちの責任の重大さを思わずには、いられません。

皆様のご協力を得て、仕事を進めて行きたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

### 編集委員一同

43年卒業	梅野 克身
44年卒業	箱根 修
41年卒業	海谷美代子
45年卒業	工藤 昌二